

ニュース&トピックス

① 地元産のキノコの消費拡大を図る 『第34回山本地方きのこと祭り』



▲ 高品質キノコを買い求める消費者

山本地方特産林産物生産団体連合会は2月18日と19日の両日、いとく能代ショッピングセンターで『第34回山本地方きのこと祭り』を開催しました。同イベントは、地元産の高品質なシタケやマイタケ等を格安で販売し、キノコの消費拡大を目指して毎年開催しています。今年も店内の特設会場には、生産者自慢の見事なキノコが並べられ、訪れた人々はその出来に感心しながら、気に入ったものを購入していきました。また前日の17日には品評会が開催され、管内からは加藤博正さん（藤里町・根城岱）が最優秀賞と消費者賞をダブル受賞し、その栽培技術の高さを証明しました。

① 白神山うどの出荷最盛期に合わせ きみまち杉ちよくんが『山うど祭り』を開催



▲ 美味しい“だまご鍋”を待ちわびる子ども

二ツ井町地区を中心に栽培が盛んな「白神山うど」の、収穫・出荷が最盛期を迎えるこの時期に合わせ、農産物直売所きみまち杉ちよくんが、人気恒例行事の『山うど祭り』が2月11日と12日の2日間開催されました。店頭では地元生産者自慢の白神山うどがずらりと並び、多くの方がその太くて立派な姿に足を止めて魅入っていました。また店内では、直売会員による山うど創作料理の試食とそのレシピが公開されたほか、新鮮な地元食材を使った“だまご鍋”の販売や、心も体もあったまる甘酒の無料提供が行われ、旬の味を楽しもうと訪れた人々を楽しませていました。

① 各地区の協同班長が参加 能代市農業協同班長会議



▲ 担当者から報告を受ける参加者

能代市農業協同班長会議が2月20日、能代文化会館と二ツ井町庁舎の2会場で開催され、平成24年度における農業政策等を、各地区の協同班長に説明しました。このうち能代地区で行われた会議には、約70名の協同班長が参加。会議では平成24年度から全農家に一律配分となる、生産数量目標について報告が行われたほか、就農支援と地域農業の基盤強化を目的とした、「人・農地プラン」などについても説明が行われました。また質疑応答では、『農業を継続・拡大していく上での支援補助の活用方法』が話し合われるなど、参加者たちは地域農業振興に向けて、思いを新たにしていました。

① 計画的な農業経営に向け 農業収支記帳の重要性を確認



▲ 農業収支について理解を深める参加者

農業収支記帳を行うことで、収支内訳や減価償却費の計算に役立ち、税務署への確定申告がより容易になるため、毎年JAでは、農業所得収支内訳書作成講習会を開催しています。今年は2月3日に能代山本広域交流センターで講習会が開催され、70名を超える農家が参加。JA秋田中央会担い手対策室の小林克己さんを講師に招き、農業経営収支記帳と減価償却の計算について、説明が行われました。参加者は説明を聞きながら、自身の農業収支などの計算をしたり、質問を交えて確定申告への不明点を解消するなど、計画的な農業経営に向けて、収支記帳の重要性を感じ取っていました。

